

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

◆履修主義に拍車がかかる。

先日JICAの研修で海外の先生方が私のクラスに訪問に來られました。この取り組みも3年目を迎えます。最初の年は「計算しているところを見に来る？」どんな意味があるのだろうか、と疑心暗鬼になったものです。しかし、今はこの取り組みこそ、学力研三十年の成果だとわかります。企画された小河さんからこのようなメールを頂きました。

「どの子ども伸ばす」

始めにおっしゃられた「この基本精神」というか哲学がこの実践の柱になっているのです。学力研の神髄ですね。

そのことがどの子ども置き去りにされることがない状態を作っている。

そのことが誰も彼も、安心して生活できる世界を作っている、「このクラスにいる」と自体が安心の空気を醸し出している。お互いがお互いを認め合い、友情をばぐくん

ている。

と「どんな安心できる世界、そのことがどの子ども全面的な発達の空間を作り出している。」

参観してもらったのは算数の基礎計算の取り組みだけです。その短時間でも明確な「見る視点」、「ねらい」を持つておられたので私が一年間大事にしてきたことが伝わったでしょう。発展途上国と言われる国の先生方が参加されていた研修でしたが、その先生方全員がおっしゃっておられたのは、私たちの国では「みんなができる」なんてことを考えている先生方は、全くおられないということでした。その理由は一つ、

「落第」制度があるからだそうです。できなかったら進級できない、ただそれだけ。

つまり自己責任を求められています。だから教師は授業をきっちり行うけれど、結果はその子ども次第ということなんです。そんな先生方も子どもの可能性、子どもの輝きに

は敏感に反応してくださった研修会でした。ただ、ふと日本で考えてみるとどうでしょう。以前金井先生が「履修主義」のお話をされていて、今の日本は「どの子ども伸ばす」ことを求められているのでしょうか。こなすだけで終わってしまっていないか。今回の休校によりもつとそれに拍車がかかった印象さえ感じています。できないけど、落第制度もないのでそのまま「できなかったこと」は積もっていきます。そして、できないという事実だけでなく、そこから生まれた敗北感、そういうものの積み重ねを私たちはわかっているけど、次から次にやるべきことがあり、さかのぼりできていない、というのがどの学校でも起こっているのではないのでしょうか。

◆やりがい

「先生のための学校」でもお世話になった赤坂真二先生の最新刊「学級経営大全」を読みました。この本は「技術本」ではないので、いろんな考えを持ちながら読んでいたため、なかなか読み終えることができま

せん。そんな中、この「履修主義」とつながりがある部分を見つけてました。

「今、先生方から奪われているのは、時間ではありません。他でもない、やりがいです。みなさんは、なぜ教師になったのでしょうか。いじめをなくしたいと思っ  
て教師になった方もいるでしょうが、それは少数派で、多くの方は、授業がしたくて教師になったのではないのでしょうか。更に言うと、ただ授業がしたいのではなく、授業を通じて達成感を感じたり子どもたちとつながったりしたかったのではないのでしょうか。」

教師というのは、過去ではなく「未来に向かえる」仕事のはずです。しかし、そこに生徒指導などが加わり「やりがい」を素直に感じる事ができなくなっている状態なのです。しかし、今やっていること、やらなくてはいけないこと、それが「授業」なのです。そこからロマンを持って取り組めば「やりがい」は得られるでしょう。ただし、それを職員や管理職がきつちり承認してあげる必要があるのです。子どもの「自己肯定感」ばかりが取り上げられています

が、今こそ教師の「自己肯定感」をあげる取り組みも意識する必要があるのでしょうか。

#### ◆教師の自己肯定感アップ大作戦

一番は「声」です。保護者の方々の感想などで嬉しかったことは、必ずコピーしてノートに貼るようにしています。単純なことですが、とても励まされます。連絡帳に保護者の方が書かれることに、嫌なイメージを持つことも多いかもしれませんが、その中でもたまに嬉しいことがあればそこをコピーして持つておきます。私はそのノートを「おうちの人のラブレター」と題名をつけて大事にとっています。読み返すことはほとんどありませんが、ぬくもりを感じます。子どもの感想や「振り返り」でもそういう視点で常に見ています。

研修授業をした際にもらった感想でも子どものことが書かれていたらそれを子どもたちに伝えることも必ずしています。毎日意識的にほめることも大事です。しかしそれ以上に「承認」してもらっているという感覚がないと人間はやる気が出ません。子

どもでも教師でもそういう視点を大切に行っています。

3月の最後の日、子どもたちからたくさんメッセージを毎年もらっていました。その中で、一番心を打たれた内容は、やんちゃな男の子が書いてくれていた、「全部の授業が楽しかった、たくさんほめてくれたのがうれしかった」という言葉でした。一番手を焼いた男の子からこういうメッセージを最後の日にもらい、感激しましたしホッとしました。子どもと関係を作るということは、このように子どもを信じて地道に関係作りをする中で、その子どもの中にある、いいものを引き出す役目になることではないかと、その子どもから教えてもらいました。

赤坂真二先生が、以前講座で、つながるエネルギーの素とは、

「安心感・楽しさ・承認」

学力向上⇨意欲×質×量(時間)

意欲・・・やる気・雰囲気

と教えて下さりました。「承認」をキーワードに四月から「どの子も伸ばす」ことを核に頑張ります。